

寒さが厳しくなってきました！みなさん、風邪をひかないよう注意を！

和 チーム託北

熊本市立託麻北小学校

令和3年11月29日

No. 29

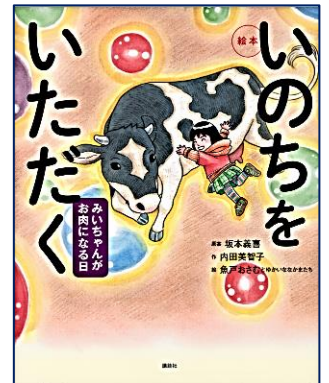
文責：津田

坂本さんの人権講話を聞き、「命の大切さ」を学んだ4年生！！

※11月25日(木)の5時間目、坂本 義喜(よしき) 様に講師としてご来校頂き、自分の体験に基づいた人権講話をして頂きました。ここでまず、講師の坂本さんについてご紹介します。坂本さんは、食肉センターで牛を`解く`仕事をされていました。ある日、一頭の牛との出会いで、自分の職業観や生命観が変わりました。子どもが通っていた小学校の先生からの依頼で、屠畜の仕事について、そして「いのちをいただくことについて学校で話したことがきっかけで、九州を中心に、学校や屠畜関係者などに向けて講演活動を続けていらっしゃいます。坂本さんの経験に基づいた絵本『いのちをいただく～みいちゃんがお肉になる日～』は全国で5万部を突破した絵本で、「いのちをいただく」ことの意味を伝える絵本です。朝日新聞「天声人語」欄にも取り上げられ、全国の学校での読み聞かせでも愛読されています。内容がとても深い絵本です。各ご家庭でも親子で読まれ、「命の大切さ」について考えるのに最適の絵本です。☆



坂本さんは自分の幼少期から食肉の仕事をしていく人生の中で、様々な体験や感じたことを優しく子どもたちへ語りかけられました。大変軽快なリズムで、時にはジョーク交えた語りで、子どもたちも坂本さんのお話に引き込まれていきました。その中で、小さい頃は、親の仕事が嫌いで継ぎたくなかったこと・肉屋の修行で大阪にいたころ



肉屋というだけで差別を受け、とても悔しかったこと・屠畜場に運ばれた牛を優しくなぜながら、「ごめんね。家にはお金がないの・・・。」と謝る少女を見て、命を取ることをあきらめようとしたこと・「心優しいお父さんが命を取ってあげないと、牛がかわいそう。」と背中を押してくれた息子の言葉で決意したこと・屠畜前、牛を優しくなぜたとき、牛が自分をなめ、覚悟をしたかのように動かなくなったときの気持ち・大切な命をささげてくれた牛たちを美味しい肉にしてあげなければならないという決意が生まれたこと・命をくれた大切な肉や食べ物に深く感謝し、無駄にしてはならないこと・そして、君たちの前後左右にいる友だちを大切に、助け合って生きていって欲しい等多くの言葉を与えてくださいました。感謝します。

～「手作りおもちゃで遊ぼうの会」大成功！～

※先週、2年生生活科の「動くおもちゃを作ろう」と国語の「遊び方を説明しよう」の二つの活動を結び付けて、「手作りおもちゃで遊ぼうの会」を開催。招待された1年生が体育館に来ると、みんな、お兄さんお姉さんの顔つきになり、会が始まると「こうしたらいいよ」「こうやってみて」など優しく接する姿がたくさん見られました。1年生は、とっても喜んで楽しんでくれました。2年生も、「1年生に楽しんでもらう」という「めあて」が達成でき、大成功の「おもちゃで遊ぼうの会」でした！

